

幼虫

黄緑色をした幼虫は

濃いみどりの一葉ひとはに居て

風に揺れていた

木漏れ日が囁き

その模様を時折り白く輝かせた

ひっそりと

彼はただ独りここで

生きてきた、しかも

置き去りにされて

親の顔など見たこともなく

友達もなく

声もなく

その黒い目に

僕はそっと押しつけた

オレンジ色に光る煙草を

彼は苦悶に身をよじり

哀しげな目を向け

事切れた・・・

ああ、これ以上の何を生きよう

この陽光の瞬きが

いかに自由をうたおうと

いかに肩を抱いてくれようと

(1999.6.1)